

新聞新報

2007年(平成19年)7月7日 土曜日

時代の証言者

△1970年(昭和45年)を境に、聖路加国際病院の経営状態が悪化。老朽化に伴う病院の建て替えにも迫られた△

79年のことですが、当時の理事会が、東京・築地に聖路加が持つ土地のうち、3分の1を売って、敷地内に建てる新病院の建設費用にあてる計画を進めていたことがわかってね。

病院を創設したトイスター先生が入手した、由緒ある土地だけに安易に処分できないと思って、僕は売却反対の声を上げたんだ。職員全員が反対に回ったので、計画は中止になってね。その後、僕は病院の理事になり、

元氣 日野原 重明 18

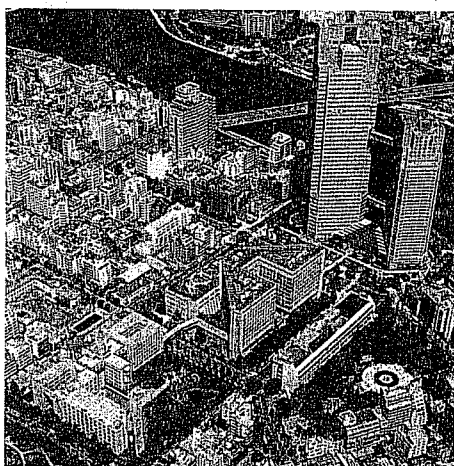
新病院の建設に深くかかわるようになったんです。

△計画は白紙に戻り、売却予定地に高層ビルを建て、賃貸収入を新病院の建設資金に充てる

大震災想定し新病院建設

案が採用された。総額約1300億円の事業は89年に着工された△

92年に新病院ができた時、あなたが作った病院だから」と、院長への就任を要請されて。もう80歳で定年の65歳をよこに過



奥の高層ビルが聖路加ガーデン、手前の建物が聖路加国際病院

ました。これは困ったところだ。旧制第三高等学校(京都)の同窓の鈴木俊一・東京都知事に相談したら、できたばかりの定期借地権

者の区別なく受け入れられる救命救急体制を作ろうと思った。大聖路加の救命救急なんかも、重症者しか診ないところが多いんだ。救急救急は地域住民へのサービスなんだから、可能な限り対応するべきなんだ。

ざっていたから、無給のボランティアなら引き受けました。

94年には、51階と38階のツインタワーを中核とする聖路加ガーデンが完成したんだけど、規模が大きすぎて営利事業になるので、病院の事業としては認められないと、東京都に指摘され

という制度を使ったらいいと言われてね。

当時は土地を借りた側の権利が強くて、「いったん貸したら返ってこない」というのが常識でしょ。ところが、定期借地権だと、期限後に相手が土地を更地にして返さないといけない。

21世紀の医療にふさわしく、病院機能を充実させようと思ってる。外科と内科の縦割りをなくして、心臓疾患を総合的にみるハートセンターを開設したり、消化器センターを作ったり。レントゲン写真を読む放射線の医師も充実させてね。

しよ。今思えば、神風が吹いたような感じだよ。廊下も広くて、壁には酸素吸入や吸引のパイプとかも設置されているんだ。「戦争や災害の時に、できるだけ多くの患者に対応しないといけないから」と言っていた。帰国後、病院の設計に反映させてね。それが、思わぬ事件で威力を発揮したんだ。

(敬称略、社会保障部 阿部 文彦)